あいち考古楽市2013

弥富座
弥富市歴史民俗資料館

いきもの考古楽展

埋文座
愛知県埋蔵文化財調査センター

考古楽さんぽ展

土器クロニクル展

貝塚座
愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

遺跡初見！―新出土品展

はじめに

毎年、愛知県埋蔵文化財センターでは、県内の調査研究成果の発表と、文化財保護思想の普及を目的とした「埋蔵文化財展」を開催しております。今年度は、弥富市歴史民俗資料館・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県清洲貝殻山貝塚資料館の三館協同企画展として「あいち考古楽市 2013」を行います。

弥富市歴史民俗資料館は、木曽川下流域の新田開発によってできた市域の歴史や民俗、産業、自然等を紹介しています。今回は、地域の特産である金魚にちなみ、「いきもの考古楽（こうこがく）」展としていきものに関する考古学資料等の展示を行います。また地域のガイドボランティアとともに近代化遺産をめぐるウォーキングも実施します。

愛知県埋蔵文化財調査センターは、今年度は「考古楽さんぽ」展として名古屋城三の丸遺跡や清洲城下町遺跡、下津宿遺跡等の遺物を展示します。また「土器クロニクル」展として、時代や地域による土器の違いなどを確認できるような展示を行います。また「いきものと歴史の講座」やワークショップなど多くの関連事業を開催します。

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館は、東海地方最大の弥生集落朝日遺跡の出土品を公開するための施設です。この夏は、「遺跡初見！（いせきはっけん）」展として、豊田市内や稲沢市内で実施された最新の発掘調査成果を展示します。

現代を生きる私たちや次の時代を担う若い人たちが、埋蔵文化財を通じ地域の歴史について考える契機となれば幸いです。

平成二十五年七月二十日

愛知県教育委員会
弥富市教育委員会
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

＊＊＊目　次＊＊＊

1……はじめに
2……関連イベント案内
3……弥富座（弥富市歴史民俗資料館）
「いきもの考古楽」
11……埋文座（愛知県埋蔵文化財調査センター）
「考古楽さんぽ」
17……
「土器クロニクル」
19……貝塚座（愛知県清洲貝殻山貝塚資料館）
「遺跡初見！―新出土品展」
21……
「弥生のトリとシカ」

例言

一、本書は平成二十五年七月二十日から九月一日まで開催する埋蔵文化財展「あいち考古楽市 2013」の解説書である。

二、本展の開催にあたり、以下の方々よりご協力を賜りました。記して感謝いたします（敬称略）。
一宮市博物館・春日井市教育委員会・名古屋市見晴台考古資料館・矢部隆・纐纈茂

三、本書の執筆は弥富座を伊藤隆彦、埋文座を永井宏幸、貝塚座を原田幹がおこなった。

イベントカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
7月 16		17	18	19	20 縁日	21 連続講座 1
22 休	23 休	24	25	26 バックヤードツアー	27 ワークショップ 1	28 ふるさとガイド
29 休	30 休	31	8月 1	2 バックヤードツアー	3 ワークショップ 2 弥生体験講座	4 連続講座 2
5 休	6 休	7	8	9 バックヤードツアー	10	11
12 休	13 休	14	15	16	17	18 連続講座 3
19 休	20 休	21	22	23 バックヤードツアー	24 考古学セミナー	25
26 休	27 休	28	29	30 バックヤードツアー	31	9月 1

歴史連続講座

いきものと歴史の講座

いきものと人の関係について、専門家にお話していただきます。

＊事前申込不要。聴講無料。

●会場　愛知県埋蔵文化財調査センター
2階研修室

●日時　いずれも10時から11時30分

第1回：7月21日（日）
「ムシと考古学」
講師：森　勇一（金城学院大学）

第2回：8月4日（日）
「ホネと人と」
講師：川添和暁
（愛知県埋蔵文化財センター）

第3回：8月18日（日）
「人と金魚の文化史」
講師：伊藤隆彦
（弥富市歴史民俗資料館）

考古学セミナー

あいちの考古学 2013

愛知県内および近隣の考古学のホットな話題を楽しみましょう！

＊事前申込不要。聴講無料。

●会場　弥富市総合社会教育センター

●日時　8月24日（土）13時から16時
8月25日（日）10時から16時

●基調講演　8月25日（日）14時から
「前期古墳と地域」
森下章司（大手前大学）

弥富座　弥富市歴史民俗資料館

いきもの考古楽展

【関連イベント】＊参加費無料

●弥富ふるさとガイド と歩く
「明治の東海道と近代化遺産」
資料館周辺の近代化の遺産を訪ねます。

＊日時：7月28日（日）
9時から12時

＊定員：30名。

＊7月3日より弥富市歴史民俗資料館にて、お電話で参加の申込を受付ます。先着順。

貝塚座　愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

遺跡（いせき）初見（はっけん）！ ―新出土品展

【関連イベント】＊参加費無料。

●弥生体験講座
「鳥の形の土器をつくる」
鳥形土製品をオーブン粘土で作成。

＊日時：7月27日（土）
10時から11時30分
14時から15時30分

＊定員　各10名。

＊7月3日より愛知県清洲貝殻山貝塚資料館にて、お電話もしくは窓口にて参加の申込を受付ます。先着順。

＊対象：小学校4年生以上。

埋文座　愛知県埋蔵文化財調査センター

考古楽さんぽ展 土器クロニクル展

【関連イベント】＊参加費無料・申込不要

●バックヤードツアーと展示解説
期間中の金曜日　10時から11時
7月26日、8月2日、8月9日、8月23日、8月30日
＊2階受付窓口の前に10時に集合してください。

●図書室開放
埋文センター内の図書室が閲覧できます。貸出はできません。
イベント開催日　10時から16時
7月21日、8月4日、8月18日、8月24日、8月25日

●ワークショップ
考古資料を使ってのワークショップ
○各回とも、10時から11時30分
○会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
2階研修室

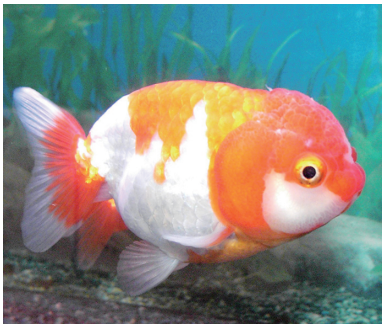
第1回：7月27日（土）武部真木
土人形ワークショップ

第2回：8月3日（土）永井宏幸
土器ドキワークショップ

弥富座　いきもの考古楽

■ようこそ金魚のまち弥富へ

弥富は金魚の生産高日本一で、特に高級金魚の産地として知られています。そしてもう一つ、かつて盛んに飼育が行われた文鳥も弥富の特産です。どちらも私たちのくらしに潤(うるお)いや癒(いや)しの効果を与えてくれます。金魚や文鳥に限らず、人は古くから生き物と深く関わってきました。もちろん食糧として利用してきたことは言うまでもありません。昔の人々が生き物とどのように関わってきたのか、何を食べていたのか、遺跡には膨大な情報が埋もれているのです。今回の「あいち考古楽市　弥富座」では、「いきもの考古楽」と題して遺跡から見つかったさまざまな生き物と人とのかかわりについて紹介します。



▲弥富の金魚と文鳥

名古屋市見晴台考古資料館蔵

■城下町の文化
「金魚と箱庭（はこにわ）」

箱庭は、浅い箱の中に庭木や建物、人物などのミニチュアを配置して庭園などを再現して楽しむもので、名古屋の城下町の遺跡から、箱庭に使われたと考えられる精巧に作られたミニチュアの土製品が数多く出土しています。

一方、金魚の焼き物はいつごろから作られるようになったのでしょう。江戸時代の中頃までは大変高価だった金魚が、後期になるとしだいに庶民にも普及するようになります。名古屋城三の丸遺跡や旧紫川（きゅうむらさきがわ）遺跡などの城下町から、江戸時代後期の金魚の焼き物が見つかっています。金魚も箱庭と同様、江戸時代後期に町人文化として発達したもので、大和郡山（やまとこおりやま）から弥富に金魚が伝えられたのもこの頃です。

▲金魚の浮き玉と
ブリキのおもちゃ（現代）

▲金魚の玩具　（名古屋城三の丸遺跡）
薄手で中空の型作りであることから水に浮かばせたと考えられる。

箱庭に使われたミニチュアの土製品▶
（清須市清洲城下町遺跡・
名古屋市名古屋城三の丸遺跡）

▲「今様見立箱庭人形」一勇斎国芳　弘化4(1847)年　当時の風俗を箱庭にして描いたもの。池にたくさんの金魚が泳いでいる。

■古墳といきもの

古墳から出土する動物埴輪（はにわ）にはウマやイヌ、シカ、イノシシ、水鳥などいろいろな種類があり、当時の人々のくらしを知る手がかりにもなります。これらは家畜であったり狩猟の対象であったり、当時の人々が意図的に選んだ生き物です。

県内でも有数の大型の前方後円墳である二子山古墳（春日井市）からは、大型の馬形埴輪が何体も見つかっています。ウマが日本に入ってきたのは古墳時代のことで、この時代にウマを持つことは高い地位、大きな権力を表しているといえるでしょう。また、水鳥形埴輪の頭部も出土していますが、鳥は魂（たましい）を運ぶ特別なものとして考えられていたようです。

▲三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）に描かれた魚（春日井市出川大塚古墳）
春日井市教育委員会所蔵（複製）

▲馬形埴輪（二子山古墳）　写真提供：春日井市教育委員会
＊今回の展示は左の馬

▲二子山古墳全景（写真右奥）　写真提供：春日井市教育委員会

■トリとまつり

人はいつの時代も空を自由に飛べる鳥に特別な想いを抱いてきました。この二つの鳥形木製品は、どちらも古墳時代のものと考えられています。本川遺跡（豊田市）では、古墳時代中期の集落に沿う川岸から出土しました。近くで見つかった大きなケヤキの根の周りからたくさんのミニチュア土器が出土し、この場所でムラのまつりが行われていたことがわかりました。また、八王子遺跡（一宮市）の鳥形は、人面の描かれた板材が使われています。このほか春日井市の古墳では、鳥形のつまみのついた須恵器や水鳥の頭をかたどった埴輪が出土していることからも、トリとまつりは深いかかわりがあったことがわかります。これらのトリには当時の人々の想いが込められているのです。

▲人面のある鳥形木製品（八王子遺跡）
一宮市博物館所蔵

人面の描かれた板材を鳥形に再利用したものと考えられている。

◀水鳥形埴輪の頭部（二子山古墳）
春日井市教育委員会所蔵

▲二子山古墳の水鳥形埴輪と同じものが出土した下原古窯跡
写真提供：春日井市教育委員会

▲鳥形木製品（豊田市本川遺跡）

▲鳥形つまみ付き須恵器（南東山古墳）
春日井市教育委員会所蔵

■弥生時代の食生活を探る!?

清須市から名古屋市西区にまたがる弥生時代の代表的な集落「朝日遺跡」。大規模な朝日ムラの人々の生活を支えていた食材の一つにイノシシがあります。出土したイノシシは最少でも一四〇頭以上になり、遺跡の規模などから五千から六千頭ものイノシシが食に供されたと推定されています。これらのイノシシは狩猟で獲ったものは少なく、大部分はムラで飼育されていたといわれています。

▲動物の骨やシカの角を加工した狩りの道具

▲朝日遺跡のイノシシの骨
朝日遺跡ではシカの骨も見つかったが、圧倒的にイノシシが多く、しかも若い個体が7割以上を占める。

◀骨や牙で作られた飾りの道具

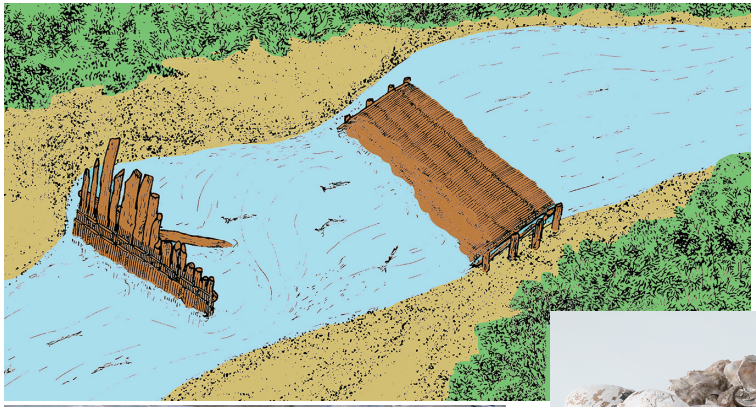
▲朝日ムラの様子（想像図）

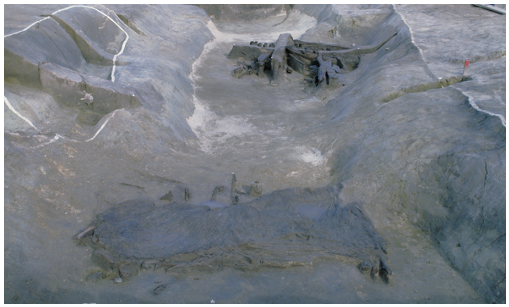
■なぜ、骨は残ったの？

日本の土壌は酸性で、土に埋まった骨はやがて溶けてしまいます。では、なぜ朝日遺跡からたくさんの動物の骨が見つかったのでしょう。その理由の一つに、大量の貝殻といっしょに埋まっていたことがあげられます。貝殻に含まれる成分が骨を守ったのです。このような遺跡はとても貴重で、朝日遺跡から出土した骨などの自然遺物は当時のくらしを知るうえで大きな役割を果たしています。

■弥生人はグルメ!?

朝日遺跡の貝層を調べると弥生人の食生活の一部がわかります。今は食べることのできないような大型のハマグリやカキ、ヤマトシジミの大量の貝殻に混じって、マグロ、タイ、スズキ、アユ、ウナギ、ナマズなど現代では高級食材として扱われる魚の骨も見つかっています。朝日ムラの人々の豊かな食生活がうかがえます。





▲朝日遺跡から見つかったヤナと想像図

◀弥生人が食べた貝

▲朝日遺跡の貝層

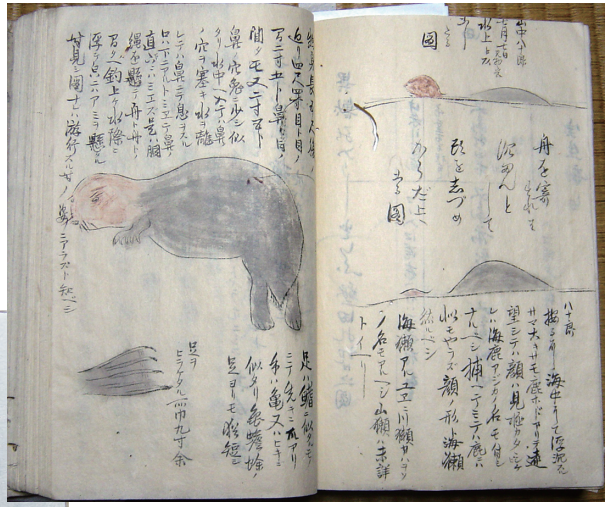
■稲作と淡水魚

田植えのシーズンになると、水田にフナやナマズが上がってきて産卵をします。外敵の少ない水田でふ化した稚魚は成長し、水田から水が落とされるのに合わせて用水路へと移動します。このように淡水魚の中には稲作をうまく利用して繁栄してきたものがあります。もちろん人間もこの魚の習性を利用して、水田や水路で魚を獲ってきました。弥生時代になると、縄文時代と比べて遺跡から見つかる淡水魚の骨が増えるのは、稲作との関係がその理由の一つにあげられます。

■アザラシ現る!!
―歴史資料が裏付け―

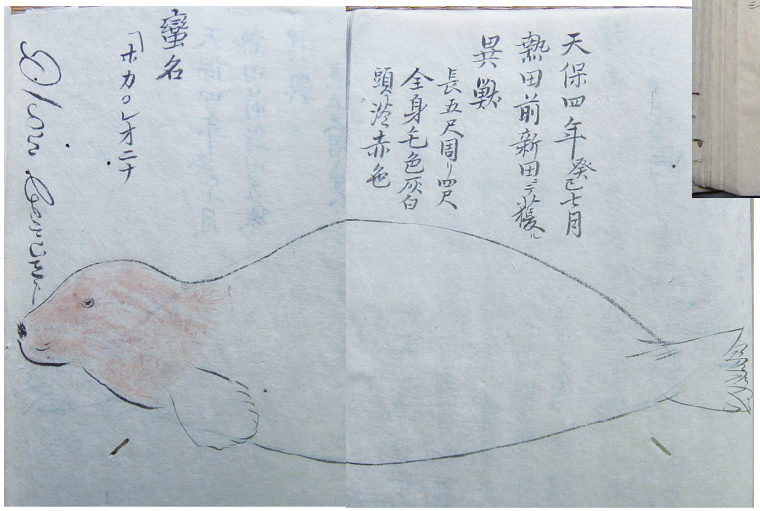
天保四（一八三三）年、伊勢湾岸の新田にアザラシが迷い込みました。動物園のない当時の人々はたいそう驚いたことでしょう。多くの見物人が集まったようです。その後、アザラシは捕らえられて現在の大須で見世物にされました。このできごとは、弥富市内の旧家にも記録が残されていて、その年代がはっきりしています。名古屋市内の城下町の遺跡から出土したアザラシをかたどった土製品は、このときの見世物の土産品ではないかと考えられます。ブームに乗った商売は今も昔も変わらないようです。

▲アザラシの土人形（旧柴川遺跡ほか）
名古屋市見晴台考古資料館所蔵



◀▲アザラシの記録　天保４年（個人蔵）
水面から顔を出す様子などがスケッチされている。

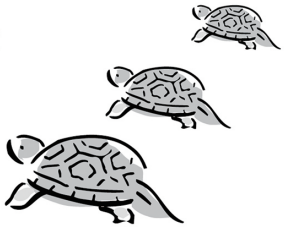
天保四年癸巳七月
熱田前新田デ獲ル
異獣
長五尺　周り四尺
全身毛色灰白
頭淡赤色
蛮名
「ホカ・レオニナ



■井戸からカメ!?

志賀公園遺跡（名古屋市）の室町時代の井戸の底から、五十体ものカメが出土しました。その内、種類のわかった四二体はすべてニホンイシガメでした。また、これまでに清洲城下町遺跡（清須市）の戦国時代の井戸のほか、県内のいくつかの遺跡でもニホンイシガメが見つかっています。

現在この地域の平地で見られるカメは外来種のミシシッピアカミミガメがほとんどですが、以前はクサガメが多く生息していました。しかし井戸から出土したカメの中にクサガメが含まれていないことから、戦国時代以前のカメの分布が現代とは大きく違っていた可能性があります。一説にはクサガメも江戸時代に持ちこまれた外来種ではないかという研究結果もありますから、今後、他の時代の遺跡からも見つかると興味深い結果が得られるかもしれません。

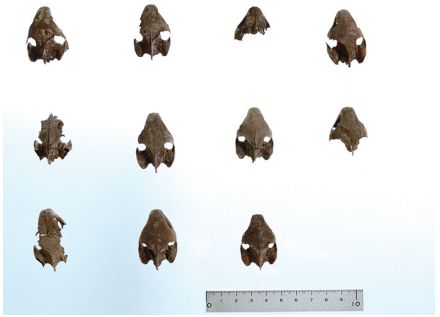


▲クサガメ
臭亀とも書くように特有の臭気を出す。日本の在来種と考えられているが、江戸時代中期以前の記述は知られていないという。

▲ミシシッピアカミミガメ
写真提供：矢部　隆
日本には1950年代にアメリカから持ち込まれた。「ミドリガメ」として売られているのはこのカメの子どもで、飼育できなくなったものなどが放されて増えた。

▲ニホンイシガメ　写真提供：矢部　隆
現在、数が減っている日本在来のカメ。かつては子ガメを「ゼニガメ」として売っていた。

▲井戸からみつかったニホンイシガメ
（清洲城下町遺跡）



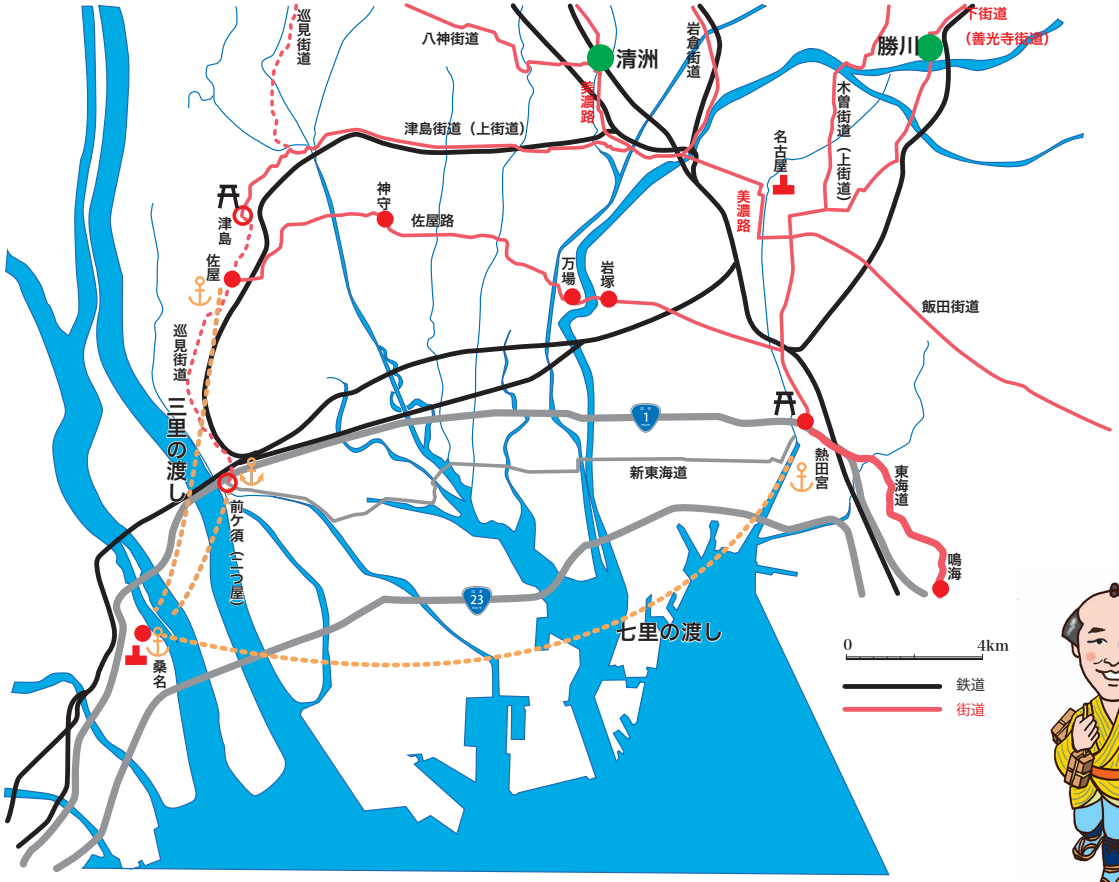
▲出土したイシガメの甲羅や頭部（志賀公園遺跡）

埋文座　考古楽さんぽ

■江戸時代の街道と宿場

「考古楽さんぽ」展は、江戸時代の街道と宿場町をテーマに展示します。

ここ弥富市前ケ須は、国道一号線に尾張大橋が架かるまで、公営の渡船場(とせんじょう)がありました。江戸時代の終わり頃、川底が上がり佐屋湊(さやみなと)が不便になったことで、この前ケ須の「ふたつやの湊」がよく利用されるようになりました。七里の渡し、三里の渡しの海道に代わって尾張平野の海岸沿いに「新東海道」は整備されました。前ケ須は明治から大正にかけて尾張西部の中心地として栄えました。昭和八年に現在の国道一号線、さらに一号線のバイパスとして国道二三号線が昭和三〇年代に開通しました。ここでは佐屋路から新東海道、そして国道一号・二三線へ、尾張平野を横断する道と鉄道を中心に紹介します。



▲尾張の主な街道

佐屋街道

新東海道

七里の渡し

美濃路　一里塚

美濃路　押切商店街

美濃路 佐屋街道 追分

新東海道
ふたつやの渡し

津島街道（上街道）

佐屋街道

美濃路　灯籠

美濃路　新川橋

東海道

下街道
鳥居松商店街

佐屋の渡し

佐屋街道

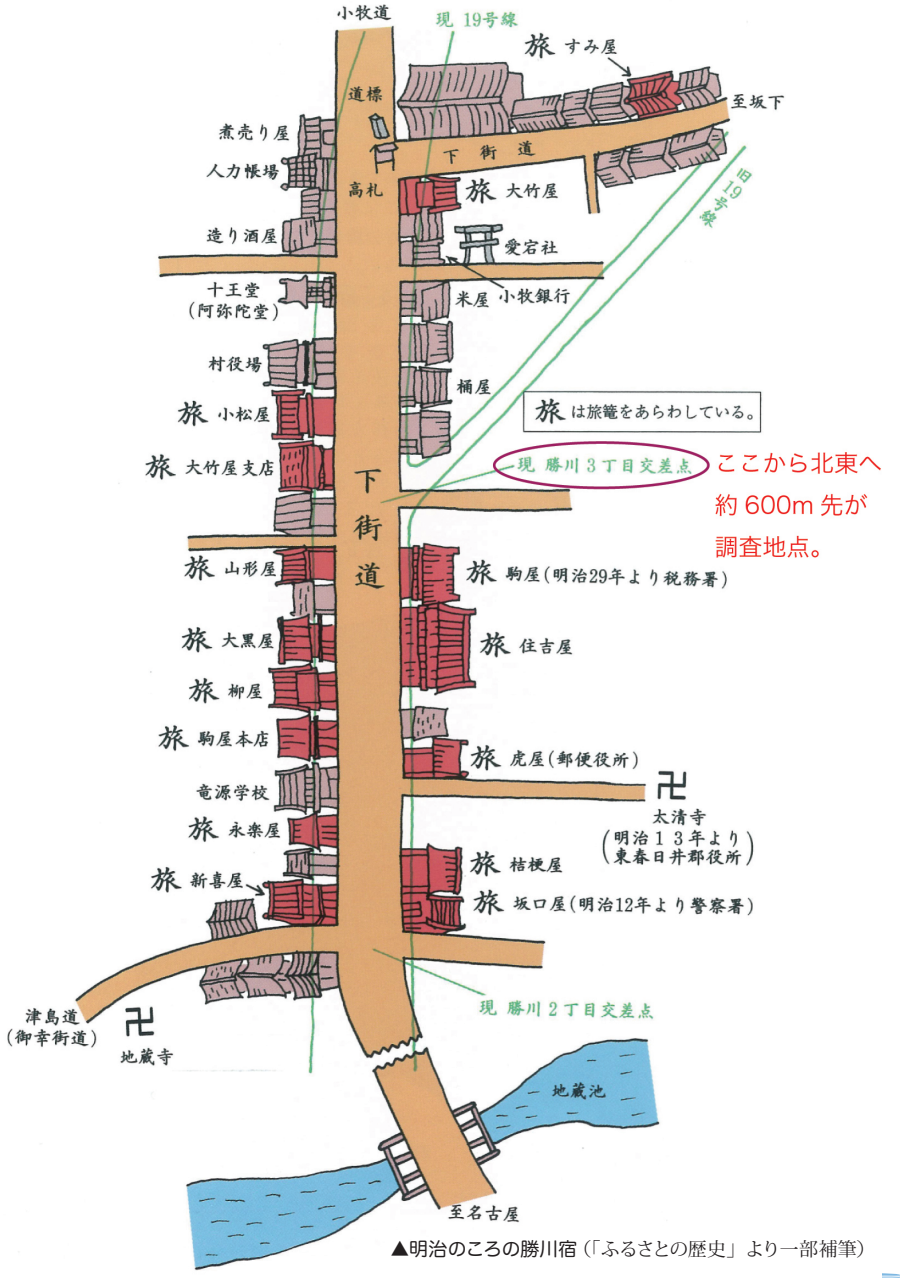
東海道　笠寺一里塚

▲いまに残る街道の石碑と道標

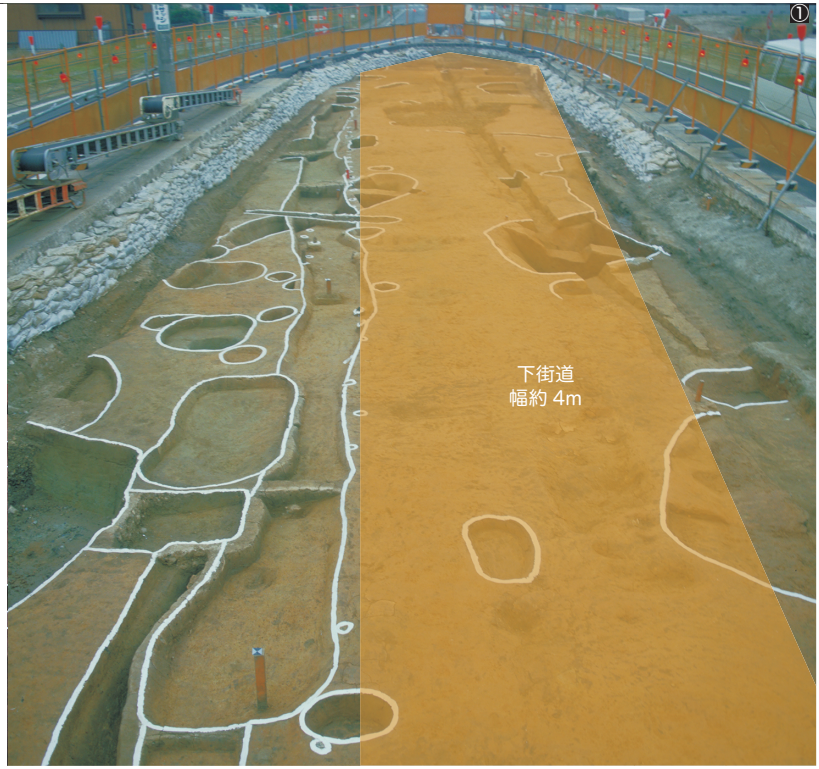
■勝川宿

発掘調査の結果、県道五九号（旧国道一九号線）勝川五丁目付近、城北線勝川駅近くから、下街道の側溝を発見しました。側溝の間隔から幅四メートル（二間相当）あったと推定できます。また周辺の調査では、江戸時代終りから明治時代にかけての街道脇の町屋跡が見つかっています。勝川遺跡では、明治時代後半に鉄道（現ＪＲ中央線）が開通したのち、勝川駅近くの街道沿いに発展した町屋の遺物が多く見つかっています。

図示した明治時代の勝川宿は、勝川遺跡の発掘調査地点から南西へ約六百メートル、現在の国道一九号線勝川二丁目から三丁目交差点付近です。



▲明治のころの勝川宿（「ふるさとの歴史」より一部補筆）



②食糧貯蔵などの甕置き場　丸く一列に並んだところ

③水回り厨房施設　丸い石組み井戸と貯水場

④明治時代のゴミ穴　陶磁器などを廃棄したところ

⑤通い徳利
勝川と水徳（店舗名）

①下街道の側溝

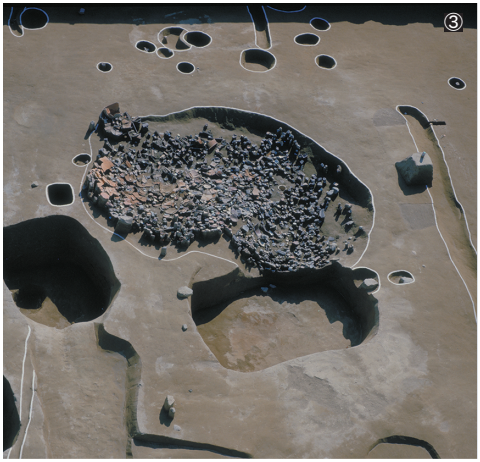
⑥勝川駅前旭町の繁華街（昭和 20 年頃）
向かって右側の角が『水徳』料理店
（「写真集春日井」より転載）

■清洲宿

清洲城下町遺跡は、五条川沿いを中心に、一二〇カ所、約一〇万平方メートルにおよぶ発掘調査を進めてきました。とくに、五条橋付近から外町付近まで含めて清洲宿の南へのびる町屋をおもに発掘調査しました。

江戸時代、家康は「清洲越（きよすごし）」を命じます。城下町がまるごと名古屋城へ移動する大事業によって城下町は衰退しました。その後、美濃路の整備によって、江戸時代から明治時代にかけて宿場町「清洲宿」として再興しました。調査成果は常に、信長の戦国時代がもっとも注目されてきました。今回の展示では、江戸時代の終り頃の十九世紀前半に焦点をあてます。

▲明治のころの清洲宿



③～⑤大型ゴミ穴
陶磁器をはじめ土師器、瓦、木製品、金属製品などさまざまな廃棄物が出土しました。
19 世紀後半、江戸時代終り頃の遺物です。

②通い徳利
「清洲本町」は地名。

①美濃路と調査区
写真左の道路は美濃路。調査区をはさんで右側が五条川。

土器クロニクル

■痕跡が語る土器の進化論？

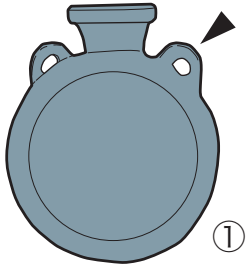
土器クロニクル展は、日本考古学でもっとも精緻な研究が進められてきた土器編年研究に注目します。ここでは生物進化論の研究から「痕跡器官」を応用した例を紹介します。

古墳時代の須恵器に堤瓶があります。円形で扁平な太鼓のような形に口が付いています。自立する底はなく、環状の把手が一対あり、紐をとおしてつり下げて使ったようです。この把手に注目します。

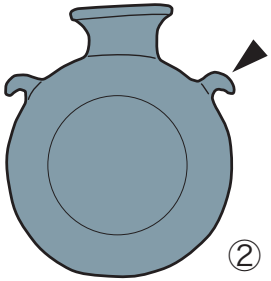
①半円の環状把手→②先の曲がった角→③先端が突出した瘤→④円形のボタン、といった変化が見て取れます。

当初は紐をとおす穴の役割だった把手が引っ掛ける把手になり、やがて紐が掛けられない把手のあった位置にマークするボタンになっていく。ボタンになった把手は紐とおすことも引っ掛けることもできません。

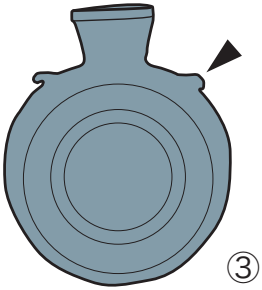
把手の「痕跡器官」、つまり把手の機能を失っています。人間の体で例えるならば、尾てい骨でしょうか。



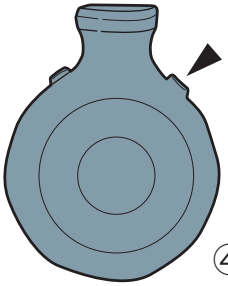
①
半円の環状把手



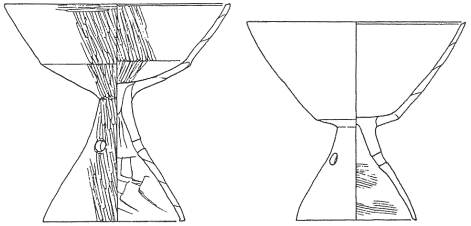
②
先の曲がった角



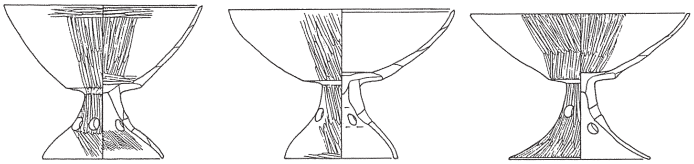
③
先端が突出した瘤



④
円形のボタン



かたちの変化に注目 廻間遺跡高杯の変遷 （縮尺 1:8）

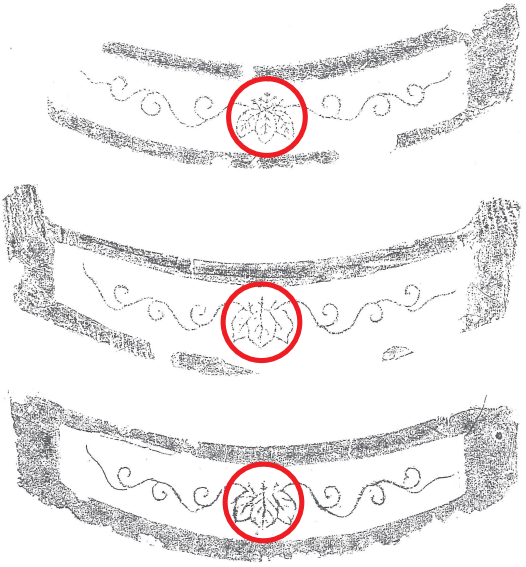


杯部に注目。口径に対して高さが低くなる、杯部が浅く広くなる。
脚部に注目。高さが低くなり、すそが開いていく。低脚化が進む。

近代磁器装飾技法に注目 勝川遺跡出土磁器皿の施文技法の変遷

瀬戸窯業の近代化は大量生産への技術革新が必要不可欠でした。
椀皿類の装飾技法に注目すると、
手描き→型紙摺絵（すりえ）→銅板転写→上絵付銅板転写の技法変遷が追えます。

ここに注目！



桐花の簡略化に注目 清須城出土軒平瓦の変遷

五三桐文

織田信雄（のぶかつ）により清須城が築城された時の軒平瓦の中心文様です。「五三桐文」と呼ばれる桐花の表現は、花の配列が中心に５つ、両脇に３つあります。花の表現が省略され柄のみの表現になっていきます。

遺跡初見！（いせきはっけん）
―新出土品展

■豊田市下山（しもやま）地区の発掘調査

豊田市下山地区（一部岡崎市額田地区を含む）では、大規模な研究開発施設用地の造成が計画されています。六五二・四ヘクタールに及ぶ計画用地内には、いくつもの山や谷が含まれています。これまでの調査で五十九の遺跡が確認され、平成二四年度は十遺跡三二、一五〇平方メートルの発掘調査が行われました。

出土品で最も古いものは、旧石器時代にまでさかのぼります。発掘調査では、縄文時代から近現代にいたる各時代の生活の跡が明らかになりました。本展示会では、縄文時代の出土品を中心に、各遺跡の代表的な資料を紹介します。

▲落とし穴　（鶴ケ池（つるがいけ）遺跡）

▲ドングリピット（栗狭間（くりはざま）遺跡）

◀石器　（猪移（いうつり）り遺跡）

▲縄文土器　（柿根田（かきねだ）遺跡）

▲炭焼窯跡（コヤバ遺跡）

▲下山地区の遺跡

貝塚座　愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

■稲沢市北丹波（きたたんば）・東流（ひがしながれ）遺跡

遺跡はＪＲ稲沢駅の東側にあり、県道の街路改良工事にともなって発掘調査が行われました。古墳時代、奈良時代、鎌倉時代から室町時代にかけての遺構・遺物が見つかっています。

古墳時代は、農水路とみられる大きな溝、畑の畝の跡などが見つかっており、この付近には田畑が広がっていたようです。

奈良時代は、「美濃」の文字が刻印された須恵器の鉢、「林□足麻呂」と人名が刻まれた須恵器の杯が出土しました。遺跡の近くには、古代の役所があったと推定されており、関係が注目されます。

鎌倉時代の井戸の底には、茶碗や川原石が敷き詰められ、その下に竹の筒が残っていました。これは、井戸を埋めるとき、井戸の神様が生き埋めにならないように、息抜きのために刺されたものです。「井戸封じの儀式」という当時の習俗を垣間見ることができます。

▲古墳時代の遺物

▲「林□足麻呂」が刻まれた須恵器の杯

▲古墳時代の畑の跡

▲調査区全景

▲「美濃」の刻印がある須恵器の鉢

▲鎌倉時代の井戸の底

弥生のトリとシカ

■トリ

自由に空を舞う鳥にたいして、古代の人々は特別な思いを抱いていたようです。鳥は、神の使いあるいは死者の霊魂を運ぶ象徴と考えられ、神聖視されてきました。稲作が始まった弥生時代には、鳥はイネの穀霊を運ぶ神の使いとして信仰の対象となっていたようです。銅鐸に描かれた鳥の絵、土器に描かれた鳥の姿をしたシャーマンなどから、この時代の儀礼、祭祀の場において、鳥は重要な役割を担っていたことがうかがえます。

朝日遺跡をはじめとする県内の弥生時代の遺跡からは、鳥の形を模した木製品や土製品がいくつか見つかっています。いずれも鳥の信仰に関係するものと考えられています。

▲鳥形土製品（一宮市町屋（まちや）遺跡）

▲鳥形土製品（清須市ほか朝日遺跡）
鳥に似せて作られた小さな容器。尾から胴までが中空の体部として、首の部分が土器の口として表現されています。

▲鳥形木製品（朝日遺跡）＊参考資料

▲土製品（一色青海遺跡）

紐をとおす孔が開けられた垂飾です。シカの絵が刻まれています。

▲筒形土製品（稲沢市一色青海（いっしきあおかい）遺跡）

朝日遺跡と同じ筒形の容器です。赤彩でシカを描くという珍しい手法が用いられています。

▲筒形土製品（清須市ほか朝日遺跡）

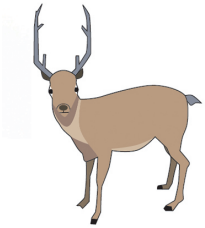
文様帯の間に、頭部を左に向けた連続するシカの絵が描かれています。

■シカ

日本人にとってシカは身近な動物のひとつですが、弥生時代の人々は、シカを神聖視していたようです。雄の鹿は毎年角が生え替わりますが、これをイネの生長から収穫に重ね合わせたのではないかと考えられています。

弥生時代には、しばしば土器などにシカの絵が描かれています。朝日遺跡や一色青海遺跡の出土品には、シカを描いた筒形土製品、壺などの土器・土製品がみられます。これらは、豊穣を祈る儀式や儀礼の場で用いられたものかもしれません。

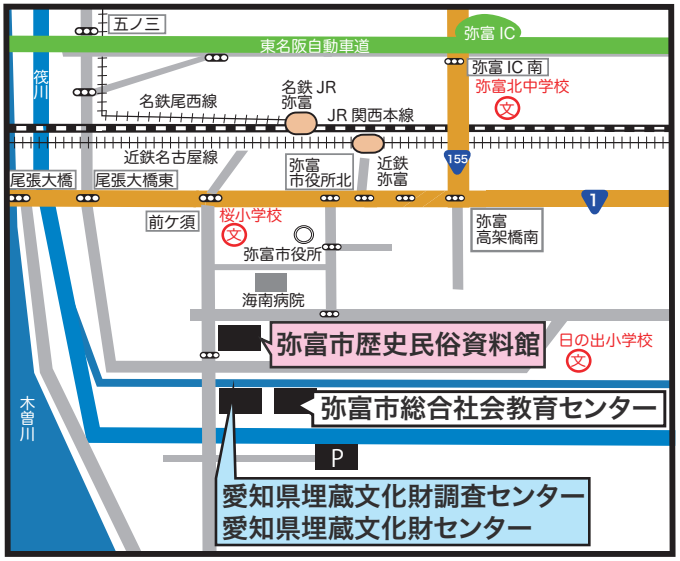
また、シカは狩猟の対象でもあり、その肉、皮、骨、角はさまざまな形で利用されていました。朝日遺跡ではたくさんのシカの骨が出土しています。骨や角は骨角器の素材となったり、卜骨など祭祀にも用いられたりしていました。



▲絵画土器（朝日遺跡）

あいち考古楽市 2013
会場地図

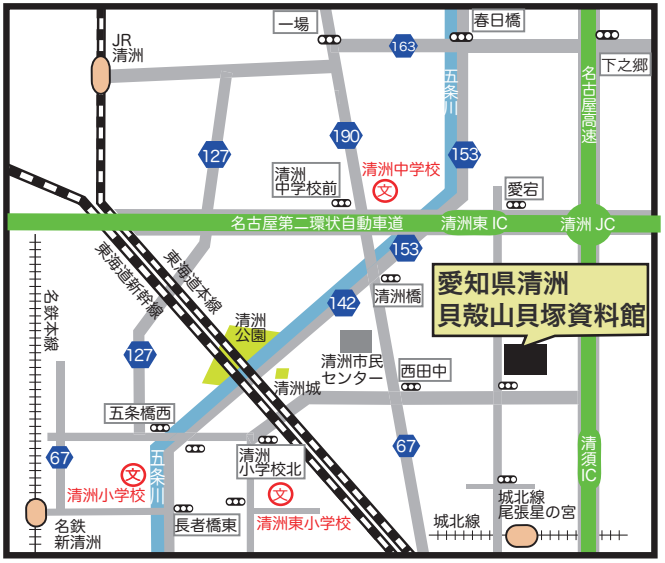
弥富座
（弥富市歴史民俗資料館）



・近鉄・名鉄・ＪＲ　弥富駅から徒歩 10 分
・東名阪　弥富ＩＣから南へ 5 分
・第二名神　湾岸弥富ＩＣから北へ 15 分

埋文座
（愛知県埋蔵文化財調査センター）

貝塚座
（愛知県清洲貝殻山貝塚資料館）



・東海交通事業城北線　尾張星の宮駅から徒歩 10 分
・名鉄名古屋本線　新清洲駅から徒歩 30 分
・JR 東海道本線　清洲駅から徒歩 35 分
・きよすあしがるバス　ピアゴ清洲店前停留所下車徒歩 5 分
・名古屋第二環状自動車道　清洲東 IC から 5 分

平成 25 年度　埋蔵文化財展
あいち考古楽市 2013
平成 25 年 7 月 20 日～平成 25 年 9 月 1 日
発行日：平成 25 年 7 月 20 日

愛知県教育委員会
弥富市教育委員会
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター